

やぎやかたあと 養宜館跡

所在地：南あわじ市 八木養宜中



養宜館外堀にあたる水田 出典：兵庫県立歴史博物館HP

養宜館跡は、県指定史跡で、室町時代に淡路守護細川氏の居館があった場所です。地域の方は、養宜館跡を大土居（おどい）と呼び、守護職の館として立派なものであったと伝えられています。

外堀の跡である帯状の水田から、鎌倉時代の築城形式を見て取れます。養宜館は、1340年に足利尊氏の命を受けた細川師氏（ほそかわもろうじ）が淡路島に入り、1519年に滅亡するまで館として利用されました。

養宜館跡の西方には、昭和2年に建立した「養宜館之碑」があり、現在も当時の面影を伺うことができます。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - ✓ 歴史がつくりだす景観
 - 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原IC下車、県道477号線、県道478号線から、県道126号線を東に進み、中八木交差点を左折して北上。車で約25分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図